

『数学読本』

松坂和夫著／岩波書店

高等学校時に十分学んでいない分野がある場合、大学入学後何かと不便を強いられる。何が不足か自覚している場合は、目的に沿って、教科書を使うのが最も手っとり早い。しかし教科書と見ただけで毛嫌にする向きにお勧めしよう、というのが趣旨である。

かといって、気楽に読める本ではない。じっくり時間をかけて、時には演習を行う姿勢がなければ十分な理解に達することは難しい。大体、手っとり早い学習法などというばかげたものを想定するくらい、バカなことはないのだ。Euclidは「幾何学に王道なし」とPtolemaios王に答えたという。2000年来、変わらぬ真実だ。

初版は1989年。全部で6冊、A4版、各巻200ページくらいだから、相当な分量のように見えるが、高校のテキスト数学1, 2, 3, A, B, CはB5版、各冊150ページから200ページくらいだから、合わせても同じかやや多い程度。中身もほぼ教科書で取り上げている事項に平行しているので、あまり大差はない。計算機関係及び統計に相当する部分はない。大学数学への橋渡し、とどこかで宣伝文句があったか。講義風、対話調を装っているところが、タイトルの読本の由来、と著者は言う。通常、テキストでは、無駄はできるだけ省く、必要最小限の記述を要請されているから、読み物にはならない。そのところを、マンツーマンで対話をしながら先に進めるよう、工夫したところが著者の意図であるようだ。

松坂先生の本は、私も大学在学時に、岩波書店の「集合・位相入門」をはじめとして、いくつか馴れ親しんでいる。私にとっては、どれも読みやすい本であった。薄々、不足分を感じている方にはうってつけの素材と思う。

著者はあまり苦勞もせず、すぐにも理解できそうな風を装ってはいるが、実は、十分な理解を得るためには、かなりの時間を要すると思う。著者は時間の許す限り、読者が演習問題につきあうことを勧める、などとやさしく述べておられるが、教師の立場で言えば、十分理解するには演習問題の量は不足する。しかし、多くの読者

は、数学が好きではないので、いやいやながらさせられていることを考慮し、自分の将来にとって、何が必要なことなのか、じっくり考えれば、好きに思えぬことでも、つきあう術を身につけねば、とお考えの向きには、この本は、強制してはいないので、読みやすいとおもう。即ち、…ねばならない。との用語は、証明中には見いだせても、皆さんと対話するような場面では、決して出てこない。という、堅い数学の本では、…すべきである、覚えておかねばならない、…などという用語が頻出すると思う方もおられるかもしれないが、実は、私は数学の本では、殆んど見た記憶がない。…だから、このようにわかるのだ、としか書いていない。専門家が目にする論文では、場合によっては不親切と思われようと、読者は相当な予備知識を持っていると想定し、編集者は、既に知られ承認された事実の説明は簡潔に、と注文をつけているので、初心者向けには記述してないから、これくらいは知っているはず、というのが暗黙の了解である。論文末の文献一覧はそれを補う目的でついているので、何も、読んだぞ、との知識をひけらかすためではない。

数学の本というと、多くの皆さんは受験のため、あるいは、…のためやむを得ず、やっているのだ、という意識が先走りするから、そのように思い込む方が多数だと日ごろ感じているから申し上げるが、多くの数学者の言を耳にした限り、嫌いなら無理に勧めませんよ、というにきまっている。自分で知りたいから、時間をかけるのだというのだ。Euclidの言う通り、ものぐさには向かない学問である。しかし、誰も妨げることはない自由な分野である。お好きなら、いくらでも。というように。

この本は読書の勧め、ではない。学習の勧め、である。気に入ったら、森の奥まで踏み込んでよし、いやなら尻込みして引き返すもよし、誰も評価などしない。己独自のひそかな楽しみを見出したとしても一向に構わないのだ。

無門慧開に無門関という禅書がある。巻頭の頌を掲げておこう。

「大道無門 千差有路 透得此関 乾坤独歩」

執筆者紹介

高橋 秀雄

教育開発系准教授。専門領域は、数学。

『書名』 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『数学読本 全6巻』松坂和夫著 岩波書店 1989-1990年 2,520-3,465円

[ブックガイド目次へ](#)